

# マダコ（地方名：タコ（全域））

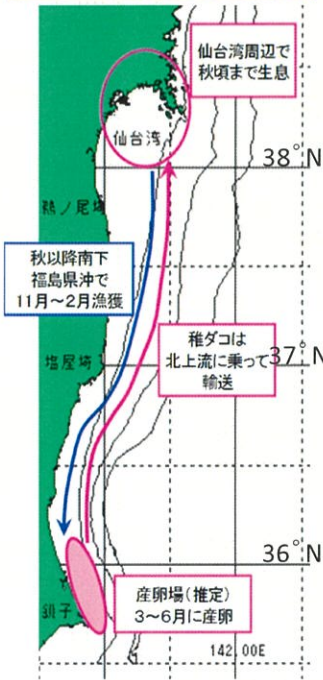


図1 分布・移動

## 生態

- 分布・移動：青森県以南の日本沿岸に分布します。本県沿岸では、平年6～8月に稚ダコが出現します。稚ダコは茨城県沿岸で3～6月に発生し、幼稚仔期、稚ダコ期に北上流に輸送され、仙台湾周辺で秋まで生育し、本県に南下ダコとして来遊します。
- 成熟・産卵：寿命は1～2年、メスの産卵は一生に1回で、卵がふ化した後に死亡します。全長60cm前後で成熟します。
- 食性：肉食性で、浮遊期の稚仔はアミ類などの浮遊性甲殻類を食べますが、底生生活移行後はエビ、カニなどの甲殻類や貝類を好む他、魚類も食べます。

## 漁獲の動向

マダコは、漁獲量の年変動が大きい魚種です。浮遊期に茨城県沿岸から仙台湾沖漁場に大量の稚ダコとして補給され、南下マダコ資源が増大した年は漁獲量が増大するとの報告があります。その要因として、浮遊期（3～7月）の仙台湾沖漁場への補給は沿岸の海況条件に影響されるとみられています。また、本県の漁獲動向と海況（黒潮、親潮、水温等の関係）からみると、水深100m深水温年偏差と漁獲量には正の相関がみられます。3～5月の水深100m深水温年偏差で、+2.0℃以上は「豊漁」、0℃以上～2.0℃未満は「中漁」、0℃未満は「不漁」と概ね予測が可能となりました。（引用文献「平成20年度事業概要報告書」福島県水産試験場）

平成22年の漁獲量は144トン、漁獲金額は98百万円でした。漁獲量は平成10～22年は25～574トンで推移していました。震災後は、操業自粛により水揚げはありませんでしたが、平成26年11月から試験操業対象種に追加され、水揚げが再開されました。直近3年間の漁獲量は53～162トン、漁獲金額は65～119百万円（H25～29は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。

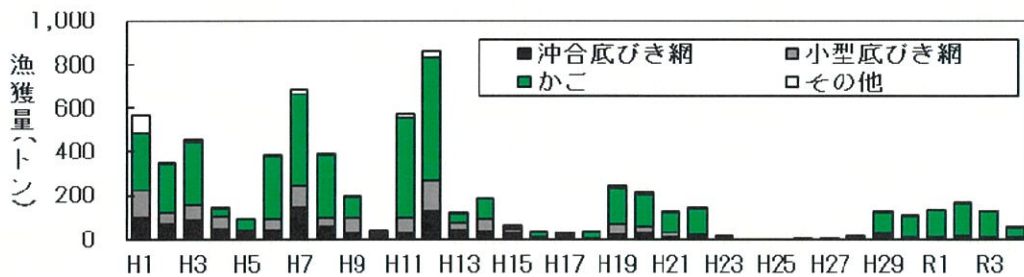


図2 マダコの漁業種類別漁獲量

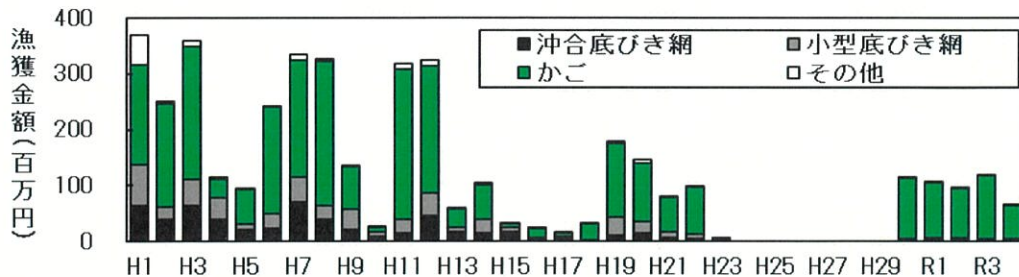


図3 マダコの漁業種類別漁獲金額

H26～H29年は相対取引のため漁獲金額データなし

## 資源の状態

○寿命が1～2年と短く、来遊資源のため不明です。

資源の水準：不明  
 資源の動向：不明

## 現在実施されている管理策

特にありません  
 今後考えられる管理策  
 小ダコ(200g以下)の再放流が有効と考えられます。